





# ガス電力“業界超越”で進化が加速



新井正人課長



松浦史典取締役



大和田陽向氏

出てもらった。供給支障を把握できるようになる。また、SM導入による効果を紹介した。

そして、「SM導入の価値は、①自動復帰などユーザーとしての価値②ガス事業者としての価値③メーターメーカーとしての価値、の3つあると考える。今後SMの導入が一層進むことにより、当社のみなさん、とくに地方ガス事業者への導入を進め活用してもらいたい。必要に応じて、導入に際しては、協力要請を行った。消費者への注意喚起は、ガスの安全仕様に影響を大きく、命の危険に繋がるため、LPガス販売事業者には、一般消費者等への周知の徹底や、工事への立ち合いなどで適切な対応をお願いしている。国としても広報活動を進めている」と述べ、事故防止への取り組みを強化していくとした。



東京会場にはあわせて17社が出展、新製品やサービスを紹介。テレメータリング推進協議会提供

……し、建設工事等におけるガス管損傷事故の防止についての協力要請文書を出した。ガス事業者だけではこうした事故を防止することは困難なため、建設業界にも働きかけを行っている。とくに爆発事故は周辺への影響も大きく、命の危険に繋がるため、LPガス販売事業者には、一般消費者等への周知の徹底や、工事への立ち合いなどで適切な対応をお願いしている。国としても広報活動を進めている」と述べ、事故防止への取り組みを強化していくとした。

昨年度より横浜市水道局と共同検針実現に向けた実証試験を開始、IoTの通信品質を検証した。上記の結果も踏まえ、今年度からは水道メーターから無線端末、電力SM、MDMS（データ管理システム）を介して、事業者サーバーと結合し、OTR（総合試験）を数回実施する予定である。共同検針では、今年度より実証試験を本格的に進めていくことで、都市ガスと共同検針運用GLのなさを確保し、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。

共同検針運用GLのなさを確保し、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。



展示会と併せて、出展企業セミナーや基調講演もあり盛況だった

展示会と併せて、出展企業セミナーや基調講演もあり盛況だった

基調講演した東京ガスネットワークの川田マサキ氏は、「当社でもSMの全面導入が決まった。テレメータリングの活用が進んでいる。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。

基調講演した東京ガスネットワークの川田マサキ氏は、「当社でもSMの全面導入が決まった。テレメータリングの活用が進んでいる。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。

基調講演した東京ガスネットワークの川田マサキ氏は、「当社でもSMの全面導入が決まった。テレメータリングの活用が進んでいる。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。また、共同検針システムに求められる基本的な性能が規定されている。たとえば、接続サーバと無線端末間の通信に要する延滞時間（伝送遅延時間）と、無線端末がSM通信ネットワークに接続し、通信可能と現地（ネットワーク）で判断するに要する時間（ネットワーク参加時間）は、いずれも目標事項として、性能を高めていく。

## WEB請求で業務合理化

EGG NAVIを使った業務合理化提案を、テーマに講演した松浦氏は、「導入した1事業者あたり顧客数は100件から10万件規模に至り、1000社で導入されている。運用ノウハウもかなり蓄積されている」と普及後6年間の進捗状況を報告。

## テレメの使い倒しポイントも

「当社ではこの10年、WEB切替に徹底的にこだわってきた。EGG NAVIはWEB切替率95%以上で、1000件以上の顧客の事業者で年間100万円以上のコスト削減が可能だ。検針というルーティンワークはシステム化して、人ではなくAIが対応することの重要性を訴えている」と強調。

## 東京電力PGが初出展


東京ガスNWもSM全面導入へ

## 最近の保安行政を解説

経済産業省ガス安全室


## SM導入の現状と今後

東京ガスネットワーク




一般社団法人 全国LPガス協会

会長 山田 耕司




高圧ガス保安協会

会長 加藤 洋一




ガス警報器工業会

会長 高橋 良典




日本ガスメーター工業会

会長 宮澤 光晴




全国高圧ガス容器検査協会

会長 小新 達彦




日本LPガス協会

会長 田中 恵次




エルピーガス振興センター

理事長 山中 光



日本エルピーガスプラント協会

会長 廣田 博清




日本エルピーガス機器検査協会

理事長 葛西 信二



日本ガス機器検査協会

理事長 中西 英夫




日本コミュニティーガス協会

会長 古野 晃




日本エルピーガス供給機器工業会

会長 丸茂 等



全国LPガス保安共済事業団

理事長 山田 耕司



日本高圧ガス容器バルブ工業会

会長 西田 憲司